



2016年5月4日 第6回関空一周ヨットレース特集

微風・強風・強い潮、満身創痍にも充実感漲る

今年6回目を迎え、西日本を代表するゴールデンウィークのビッグファミリーレースに育った「関空島」周回レースに今年も九州から愛知県までのエントリー81艇、550人が集った。

兎に角「日本で2番目に楽しいヨットレース」をしようと、2015年8月から実行委員会（四ヶ所実行委員長）を立ち上げ、月1～2回大いに意見を戦わせた。

- ・初日5月3日のプラクティスレースを、地元密着「岬町長杯」に格上げしよう！
- ・人気の前夜祭は、クラブ員のレース委員手作りホスピタリティーで大いに盛り上げよう

・今後も持続できるよう実行部隊は若手が担い、運営負担軽減に工夫を！

「岬町長杯」（5月3日11:35スタート）は40Knの強烈なブロー

・実行委員会の狙い通り、3日の「岬町長杯」は人気を呼び昨年の1.5倍の50艇がエントリー。雨は降らないもののどんより曇って、低気圧通過で春の嵐との予報が的中し荒れた展開となった。第1レースはスタート時点から30Knオーバーのブローが入り、ゼネリコ2回。予定より30分遅れのスタート。セールを破損する艇、リギンを飛ばす艇が続出。50艇中フィニッシュ艇は半数に満たない僅か24艇と厳しい結果となった、（第2レースさらに強風となりキャンセルとなった）

「関空1周レース」（8:35スタート）は、77艇が出艇。は風、潮ともにバラエティーに富んだコンディションで荒れた展開に

・昨日とは打って変わって、青空、5～6Knと最高のレース日和。スタート信号が発せられると同時にするするーとスピンの花が開く。ここまでは順調なレースと思われたが、関空橋の手前では風が落ち、岸よりコースで、逆潮を捨った艇と、風をもらおうと関空寄りのコースをとった艇と大きな差が。1マークから関空橋の海域では、落ちたかと思えば強烈なブローにたたかれるといった乱流。3マークから先は40ノットを超える強風下の上りでスプレーを浴びながらの厳しい戦いとなった。

・レース終了後の帰着申告時には「しんどかった。手が震えてサインが出来ん！」「あちこちが痛い。痔だらけです」「セールが避けちゃいました」などとこぼしながらも、皆さん達成感に満ちた充実の笑顔。

当レース第一回目の立ち上げから第6回目まで継続の立役者、大阪府マリーナ協会・武田理事長（大会副会長）は「今回のレースはレーサーにとっては様々なコンディションの中で戦った充実感があって非常に良かったと好評。小型艇には厳しかったと思うが。また運営上の課題も残ったが逆に献身的に働いたことも支持をえたのではないかな」



挨拶する木下会長



Cクラス
優勝・
IRCクラス
優勝
CONTINUE
II



同 Bクラス
優勝 WING



同 Aクラス
優勝 グラシ
ヤス13世



JSAF 内海代表
ご挨拶